

編集後記

<*>巻頭言は、本誌 Vol. 12, No. 1 まで委員長として編集に携わられた名古屋工業大学の和田弘子先生に執筆して頂きました。長い間ご苦労さまでした。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

<*>指標は明治大学の石井幹太先生に執筆して頂きました。

<*>総説は、九州大学の今任稔彦先生に石橋信彦先生のご存命のころからのお仕事である「緩衝液との反応を利用するフローインジェクション滴定分析法」の執筆を無理を言って短期間にお願いました。さらに、九州大学の松本 清先生と研究室の方に「多チャンネルフロースルー型バイオセンサー」を、山梨大学の山根 兵先生に「大容量サンプルを注入するフローインジェクション分析法とその応用」を執筆して頂きました。

<*>前号に引き続いて FIA Bibliography を熊本大学の田中 明先生に、学会情報を聖マリアンナ医科大学の内田秀和先生にお願いしました。

<*>この 8 月 13 日から 17 日までシアトルで行われた ICFA'95 の報告を今任稔彦先生と電気化学計器の浅野泰一氏に、またワシントン大学のクリスチャン先生の研究室に留学されていた鳥取大学の中野恵文先生にその滞在記を執筆して頂きました。

<*>この号から編集委員長をお引受け致しましたが、なにかと不手際が多く、色々ご迷惑をお掛けいたしました。次回からはそのようなことの無いようにしたいと存じますが、何卒皆様方のご支援のほどお願い申し上げます。

編集委員会 河島拓治